

[2018年3月27日]

鉄建建設株式会社 経営戦略室 広報部

東京都千代田区三崎町 2-5-3 〒101-8366

TEL 03-3221-2297 FAX 03-3221-2379

建設技術総合センターの研修施設を拡充

～研修施設棟 Annex と研修用モックアップ（施工実大模型）完成～

■鉄建建設株式会社（本社：東京都千代田区、社長：林 康雄）は、自社の研究・研修施設がある建設技術総合センター（千葉県成田市）に、女性社員のための研修施設整備を目的に、「研修施設棟 Annex」を増築し、3月26日に竣工（しゅんこう）式を行いました。また新入社員の早期戦力化を目的に、「研修用モックアップ（実物大模型）」を新たに設置しました。

■建設技術総合センター

当センターは、2006年に首都圏の鉄道工事において、当社が3件連続で輸送障害を起こした反省に立ち、再出発のため2007年11月に設立した施設です。センターでは「実体験型の研修施設」「技術者教育の再構築」「失敗から学ぶ」の三つを運営方針にかかげ、屋外研修、屋内研修、研究開発の3つのフィールドで構成されています。屋外研修フィールドは150メートル複線軌道を中心に駅のホームや踏切など、すべて本物の設備や機械を用いた実体験型の施設があり、屋内フィールドには過去の事故を風化させることなく、そこから得られた教訓を学ぶ場として「事故の情報展示館」や「川崎事故に関する特別展示室」や、100名まで収容可能な大講義室を含め、講義形式やPCを使用した個人ワーク形式などに対応可能な複数の研修室があります。

■研修施設棟 Annex

鉄道工事はそのほとんどが、終電から始発電車までの夜間に行われることから、実際の状況を再現した訓練を行うため、夜間研修に対応できる施設として、2009年11月に研修施設棟（本館）を建設しました。この建物は研修用休養室（4人用×25室、1人用×5室）や食堂、浴室などを備えており、これまで、社内の研修だけでなく、鉄道工事に携わる他のゼネコンの技術者や協力会社の技能者も多く受け入れています。今回、新たに増築したAnnex棟は、本年度（2017年4月入社）の女性新入社員らの声から生まれたもので、15室の研修用休養室（2人用×14室、1人用×1室）のほか、女性用の大浴場やランドリールームが新たに設けられました。各エリアへの出入りにはノンタッチキーを採用してセキュリティーを高め、要望の多かったシャワールームやパウダーコーナーを採用し、身支度を行う洗面台はコーナーを設け、通常よりも多く設置しています。また、二人で共同使用する研修室内には、着替え場所の確保や、姿見の鏡など女性目線での設備を設けています。

■モックアップ（実物大模型）

施工管理を行う社員を、教育によって早期に育成をはかる必要性が出てきており、『新入社員の早期戦力化』を目的として、新たに実物大模型による研修設備の拡充をはかりました。

当社では、2016年5月から8カ月をかけて、新入社員研修を含む階層別研修や、専門研修の見直しを行っており、新入社員研修については2017年度よりこれまでの2週間から3カ月間に期間を延長し、その内容を質・量ともに充実させてきました。今回、新たに設けた実物大模型は、この一環として施工途中の状況を目で見て、実際の業務を体験できる研修を可能にするものです。

実物大模型で再現した施工状況は、土木工事の基本的な要素が多く含まれているボックスカルバートトンネルの構造物（鉄筋、コンクリート）と、建築工事のうち大きなウェイトを占める躯体工事に焦点をあて、構造種別ごとのRC造（在来工法、PCa工法）、鉄骨造、SRC造の柱・梁（はり）部分となっています。またこれらを施工するために必要な仮設として足場、型枠、型枠支保工なども実際と同様に再現しています。これらの設備を使用して、2018年4月より「仮設計画」「安全管理」「出来形管理」「品質管理」「工程管理」といった躯体工事全般の管理を多面的に学ぶ研修を行う予定です。



写真-1 研修施設棟 Annex 竣工式
(林社長以下 22 名の関係者が列席)



写真-2 研修施設棟 Annex 外観 (右が本館)



写真-3 女性らの意見を取り入れた広い脱衣所



写真-4 実物大模型 全景



写真-5 ボックスカルバートの実物大模型



写真-6 建築 (手前から RC 造、S 造、SRC 造)
の実物大模型

以上